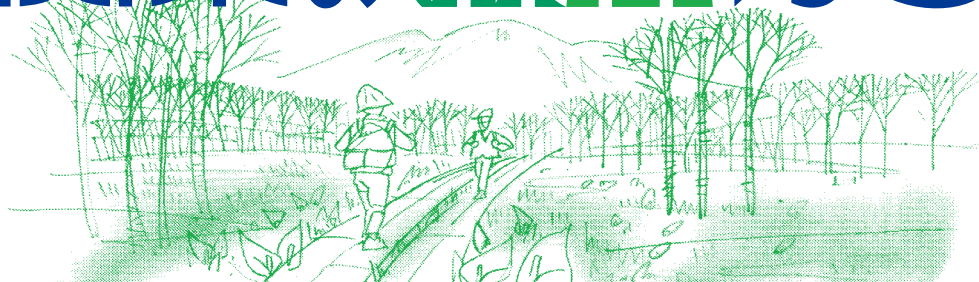


平成20年 7月 1日

第52号

関東の森林から



国民の森林・国有林

関東森林管理局

前橋市岩神町4-16-25

TEL (027)210-1158

FAX (027)210-1159

<http://www.kanto.kokuyurin.go.jp/>



東京都等の水源林「南山（矢岳）」と秩父さくら湖（埼玉県秩父市）

（撮影：埼玉森林管理事務所 守谷 忍）

美しい森林づくり

第一回国有林野事業見学会を開催

指導普及課長 丹 藤 卓 司

私の視点

「森は、子どもたちを変え、教育を変え、日本を変える」

国立妙高青少年自然の家 所長 三 上 智 氏



広報「関東の森林から」は、日本の森林を育てるため間伐材を使用しています。

美しい森林づくり

第一回国有林野事業見学会を開催

指導普及課長 丹藤 卓司

関東森林管理局では、森林・林業及び国有林野事業についての理解を深めていただき、「美しい森林づくり推進国民運動」に資するため、5月7月、8月、10月に国有林野事業見学会を計画しています。

第一回目は、5月30日(金)に「木材について学ぼう」をテーマに製材所と修復中の歴史的建造物の見学と木材の流通やくらしの中の木づかいなどの勉強会を行いました。

東京都や茨城県、群馬県内から緑



製材所での説明を聞く参加者



小径木加工センターを見学

のオーナーの皆さんをはじめ、19名の方が参加されました。

移動のバス内では局職員が、森林・林業・国有林野事業の説明と、木材の性質や利用状況・利用方法についての説明を行いました。

最初の見学先である新井木材有限会社では、新井取締役から、木材価格と搬出経費、用途に合わせた製材方法・流通過程について説明があり、工場内で実際の製材作業やスノーボード用等様々な寸法に挽かれた板な

どを見せていただきました。

次の見学先であるわたらせ森林組合小径木加工センターでは、所長から、間伐材を棒状に加工し、ガードレールや標識、治山工事用資材として県内各地で使用されているとの説明があり、実際に丸太が棒状の材に加工されていく様子を見せていただきました。

参加者の皆さんにとって、製材工場は普段立ち入ることのない場所であり、丸太が次々と加工されていく姿を見て「木材がどのようにして山から運ばれ、板になり、販売されていくのかが初めて分かった」等の声が聞かれました。

午後は、財団法人日光社寺文化財保存会の案内により、世界遺産に登録されている日光の社寺のうち、二荒山神社、日光東照宮、輪王寺で行われている木造建築物の修復方法に



柱の取替えの説明を受ける(輪王寺)



腐朽部位の修復作業(二荒神社)

ついて、それぞれの現場で説明を受けました。

二荒山神社、日光東照宮では、堀の修復作業、腐朽部位の取替えや幾重にも重ねられる漆塗りの状況を解説していただきました。

輪王寺では、本殿を支える直径1mもある柱の取替え状況や屋根の修復を見ることができました。

数名ずつ交替でしか入ることのできない場所もあり、貴重な体験ができたこと喜びの声が聞かれました。

最後に、保存会から「修復に用いる大きな国産材の確保が年々難しくなっている現状に憂慮しており、将来のためにも国産材の育成を進めて欲しい」との話があり、参加者の皆さん、そして私たち職員も同感だと大きくうなずきました。

帰りのバスの中では、「美しい森林づくり推進国民運動」についてPRと木づかいの推進をお願いし、見学会を終了しました。

赤谷プロジェクト近況報告

放送大学の面接授業



赤谷プロジェクトの説明

放送大学群馬学習センターによる面接授業が「生物多様性保全と国有林管理」をテーマに5月17日(土)、18日(日)の2日間にわたって「赤谷の森」などで行われ、放送大学の生徒約20名が参加しました。

今回の授業の特徴は、赤谷森林環境保全ふれあいセンター、(財)日本自然保護協会、放送大学群馬学習センターが連携し、「赤谷の森」の野外授業を取り入れたことです。

1日目は、沼田市図書館で赤谷森林環境保全ふれあいセンター所長から「赤谷プロジェクトの内容とその意義」、(財)日本自然保護協会から「生物多様性と新しい時代における地域環境管理」などの講義を行いました。

2日目の野外授業では、「赤谷の森」の豊かな自然を観察するとともに、当局OBの長島成和さんが、森林土壌と植生の関係や生物多様性について解説を行いました。

今回の面接授業は、受講生に大変好評で「国有林がこのような先進的な協働の取組を実施しているとは驚いた。今後も赤谷プロジェクトに関心を持っていきたい」、「野外授業では「赤谷の森」の自然を楽しめた」などの感想が聞かれました。

放送大学との連携は初めての試みでしたが、来年度も継続して実施していきたいと考えております。



森林土壌と植生の関係についての説明

千葉市中學生への環境教育の実施

6月6日(金)に千葉市白井中学校の生徒38名を対象として環境教育を実施しました。これは例年いきもの村近くの高原千葉村において、千葉市の中学校が総合学習の時間を利用した体験学習を実施しており、赤谷センターからも「いきもの村自然体験」として環境教育プログラムを提供しているものです。

この取組は千葉森林管理事務所とも連携しており、事前学習として千葉森林管理事務所の職員が白井中学校において森林教室を開催し、「森林のはたらき」についての講義や丸太切り体験などを実施し、「赤谷の森」の「いきもの村自然体験」と組み合わせることにより、森林の役割や「赤谷の森」などについて、より深い理解が得られるよう取り組んでいます。

「いきもの村自然体験」では、センター職員から赤谷プロジェクトの概要、センサーカメラで撮影された「赤谷の森」の動物の様子について説明を行い、その後、センサーカメラを実際に設置する実習を行いました。

いきもの村周辺の自然散策路では、赤谷プロジェクト地域協議会の長濱陽介さんに協力して頂いて、リスやアカネズミがかじった木の実やウワミズザクラの幹にある熊が木登りした爪痕などについて解説しました。

普段は動植物と触れあったことが少なく、森林・林業や環境問題についてもあまり関心がない生徒も多かったようですが、これを機会に森林・林業や環境問題への関心を高めてもらえればと期待しています。



地域協議会長濱さんによる自然散策路のガイド



職員によるセンサーカメラ取り付け実習

ボランティア巡視員会議 を開催

【村上支署】 奥三面地域に本格的な入山者を迎える時期となった5月27日(火)、支署会議室において、朝日山地森林生態系保護地域ボランティア巡視員会議を開催しました。

今年度も引き続き、「三面川の原生林を守る会」と「さけの森林づくり推進協議会」の12名の方々にボランティア巡視員をお願いし、会議の席上、支署長から一人一人に委嘱状を交付しました。

本会議では、各巡視員から提出された巡視結果を報告、次に平成19年度標識設置報告及び平成20年度巡視活動方針並びに巡視マニュアル等の説明を行いました。



ボランティア巡視員会議

その後、意見交換ではゴミ問題等入山マナーについて、活発な意見が出され、禁漁期の釣りやトリモチによる小鳥の捕獲など悪質な行為の指導案件も報告されました。

また、昨年から行われている関東・東北森林管理局合同の巡視員会議についても、今年は秋に奥三面地域で行うことが決定されました。

最後に登山道に架かるつり橋の修理や入山者に渡すパンフ等の作成等の要望がだされ、有意義な会議を終了しました。(業務課 杉山茂人)

国有林で「JPPの森づくり」

【宇都宮】 5月24日(土)、君津市内の国有林において、日本郵政(株)西川善文社長参加のもと日本郵政社員による植樹活動が行われました。

当日は天候にも恵まれ、小林関東森林管理局長も出席し、総勢140名により盛大に行われました。

日本郵政グループ(JPP)は、CSRの一環として森林の育成への貢献を掲げ、全国で植樹活動を展開することとしており、今回をその第一回と位置付けています。

この箇所は、NPO法人「どんぐりの会」との分取造林契約地ですが、その一部について、JPPがボランティアによる植樹及び育林費用の一部を

負担する形で森づくりに参加するものです。NPOと民間企業の連携による新しい仕組みとしても注目されます。



植樹祭に参加の皆さん

(上司調整官 淡中和博)

未来の子どもたちに 美しい森林を!

【棚倉署】 6月2日(月)、当署管内の国有林において植樹祭を開催しました。管内町村長はじめ、林業関係者や一般の方々、地元の矢祭町立下関河内小学校の生徒など総勢230名が参加しました。

式典では、「かけがえのない日本の森林を守り育て、地球温暖化の防止に貢献するためにも大勢の方に森林づくりに参加していただくことが大

切。」との当署長の挨拶に次いで開催地である古張允矢祭町長から歓迎の挨拶がありました。

その後、当署事業への永年の協力に対し、有限会社ウッド福生、奥久慈林業協同組合に感謝状を贈呈、来賓祝辞を受けました。

式典終了後、植樹会場で記念植樹を行い、0.1畝の会場に参加者全員で慣れない斜面に苦戦しながらもスギ・ヒノキの苗木240本を一本一本丁寧に植えました。

子供達は苗木の年齢を知ると、「妹と同じだ。」などの声もあり、樹木に親しみを持ったようでした。

今後も、国有林野事業や森林づくりに関して多くの方に理解を深めてもらうために、職員一同力を合わせて取り組んでいきたいと思えます。



思いを込めて植えました

(森林ふれあい係長 蛭間敦子)

元気いっぱい 小学生と森林教室

伊豆薯 5月21日(水)、伊豆の国市立大仁北小学校で、5年生41人を対象に森林教室を実施しました。

同校では毎年森林教室を実施していますが、今回は天城の森にキャンプに行く事前の学習という位置づけで依頼を受けました。

私たちが恩恵を受けている森林の様々な機能や、現在の日本の森林の状況などについて、主にスライドを使って説明し、森林の土の実験や、身近な樹木の実物での解説もしました。

私事ですが、今年森林ふれあい係長になり、一人で受け持つ最初の森林教室でした。不安と緊張の中で始



説明を熱心に聞く子供たち

まった授業でしたが、始まってしまふとそんな心配は全く無用でした。

みんなとても元気で、積極的に質問に答えてくれました。元気な子どもたちに助けられ、無事1時間の森林教室を終えることができました。

わずかな時間でしたが、身の回りにあるたくさんさんの森林に眼を向けるきっかけとなってくればと感じました。これからも多くの子どもたちに森林の良さや大切さを広めていけるよう、努めたいと考えています。

(森林ふれあい係長 可知のどか)

新緑のもついで 「森林と野鳥に親しむびじり」 を開催

「日光署」 前日までの肌寒い雨も上がった6月1日(日)、新緑の国有林において、日本野鳥の会栃木県支部との共催で、「森林と野鳥に親しむびじり」を開催しました。

当日の参加者は23名。午前中に実施した探鳥会では、ノスリ、ホオジロ、イカル、オオルリ、メジロなど多くの野鳥が観察できました。

なかでも、栃木県の鳥にも指定されているオオルリを、間近に観察でき、その鮮やかな濃い青と白のコントラストの美しい姿やさえずりを十分に観察することができました。

参加者の口々から「来て良かった」



オオルリを間近に観察

との声が聞かれ、日光市街地に近い国有林の自然の豊かさが実感されました。

午後からは、サクラの小枝を使ったモックン作り、押し花、押し葉等を使ったしおり作りを行いました。

馴れた手つきで木を削る姿がある一方で、小学生の女の子が鋸やナイフの安全な使い方を教わりながら、真剣に作品作りを行っている姿が印象的でした。

次回は秋の開催を予定しており、森の豊かさ、木のぬくもりを伝えていきたいと考えています。

(流域管理調整官 佐藤和男)

国有林野保護監視員 研修会を開催

「利根沼田署」 6月8日(日)に国有

林野保護監視員研修会を行ない、20名の国有林野保護監視員が出席しました。

署長から、「最近、山菜採りに入っている行方不明となる事故等が発生しており、事故、犯罪の未然防止の抑止力として国有林野保護監視員の存在が期待されています。」と挨拶があり、管理係長から、国有林野保護監視員制度、加入しているボランティア活動保険についての説明を行いました。



保護監視員の研修会

また、国有林野保護監視員の小菅正治氏からは、林道のゲートを開けてバイクで入ろうとした人、悪質な山菜採りや家庭ゴミを投棄しようとした人を注意した体験について、月岡章氏からは、奥利根水源の森で山菜採りに山に入っている行方不明になり、地元の消防団等80人体制で5日間捜索を行った時の体験談を講演して頂



森林の話に聞きいる子供たち

これまで、国有林、民有林が各地域等でそれぞれが森林教室を実施していましたが、内容の固定化などがありました。

民有林・国有林合同で初の試み

「中越署」6月5日(木) 6日(金)にわたって、当署と新潟県南魚沼地域振興局との合同開催により、南魚沼市立北辰小学校で森林教室を実施しました。

問題が生じており、「両者で実施しては」との話になり、今回初めての試みとなりました。子供たちは署長の歓迎の挨拶の後、職員から紙芝居や、林内に入って森林のはたらきについての話に目を輝かせていました。

地元新聞社も取材に駆けつけ、職員の話に聞き入る子供たちの様子を大きく紹介しました。参加した子供たちからは「学校で聞く話よりも森の中で聞く話の方がずっと楽しい」との声も聞かれ、このような森林を通じた取り組みにより、子供たちが自然環境保護に関心を持っていただくきっかけになればと考えています。

(流域管理調整官 會澤 明)

「美しい森林づくり」パネル展示会開催

「会津署」5月24日(土) 25日(日)にわたって、当署の業務内容を一人でも多くの地元市民に理解してもらうために、初めての「パネル展示会」を開催しました。

(株) リオンドール様から会津若松市の中央商店街において展示会場を提供いただき、当署が取り組んでいる、下刈・除伐・間伐の森林整備や山腹崩壊地の復旧工事等を紹介する写真パネル三十枚と、会津若松市と

協定を結び、市民の憩いの場となっている「遊々の森」に自生する美しい花々の写真三十枚を展示し、当署のPRを行いました。市民からは「このような企画を今後も行ってほしい。」との暖かい声援をいただく一方、「会津森林管理署」の名前を知らない市民が多いことも知り、今後とも国有林のPRに努める必要があると感じました。



市民でにぎわうパネル展示会場

(森林ふれあい係長 須藤秋夫)

「丹勢山森林整備&ハイキング」を開催

「日光署」6月8日(日)、ツツジが咲き誇る日光市の国有林において、日光市と共催、野生生物愛護ネットワークの協力を得て、「丹勢山森林整備&ハイキング」を開催しました。

丹勢山は、日光の社寺と男体山の



森林整備で汗を流す参加者

間に位置する山で、ヤマツツジをはじめ、レンゲツツジ等各種のツツジ類が群生しています。参加者は公募による40名が4グループに別れ、アカマツ林の下層に自生しているヤマツツジ等の成長・開花を促すため、リョウブ等の灌木の除伐に汗を流しました。安全を期すため、署員と野生生物愛護ネットワークの会員が指導者となり、互いに近づきすぎないように、声をかけながら進められ、約1鈔の区域が整備されました。昼食後、希望者には、満開のツツジと新緑を楽しみながらのハイキングも用意され、皆爽快に下山して終了となりました。次回は秋の開催を予定しており、森林整備の大切さを伝えていきたいと考えています。

(流域管理調整官 佐藤和男)

森林官からのおたより

千葉森林管理事務所 上野森林事務所

森林官 樋田芳藏

当森林事務所は、千葉県南部房総丘陵地帯の東側に位置し、地元勝浦市を始め、鴨川市、大多喜町及び銚子市にかかる海拔0メートル〜350メートル、約2,000ヘクタールの国有林を管理しています。

管内森林の97％は、東京湾に注ぐ養老川と太平洋に注ぐ夷隅川の源流になっており、起伏に富んだ複雑な地形が房総丘陵独特の溪谷美を創り出しています。

また、南房総国立公園に指定されている麻綿原高原やカヤ・ブナなど50科154種の樹木が見られる筒森自然観察教育林など、約170ヘクタールに及ぶ会所生活環境保全林には、首都圏からの地の利も手伝って、年間を通じた遊歩道の散策や地元部落直轄の廃校を利用した「縦の木庵」の手打ソバに舌鼓を打つハイカーで賑わっています。

残り3割、50ヘクタールの森林は、海岸沿いに位置して

景勝地の一翼を担っており、特に千葉県北東部の銚子市に所在する犬吠埼・君ヶ浜国有林は、水郷筑波国立公園にも指定され、「世界灯台百選」や「日本の渚百選」にも選ばれた名所に隣接しています。

一方、「日蓮聖人生誕の地」で知ら



勝浦ダムと会所生活環境保全林の一部

れる南房総国立公園外房側の鴨川市小湊に所在する10ヘクタールの国有林は、急峻でその一角は太平洋に沈み込み、その昔、日蓮聖人の誕生を祝って鯛が浅瀬で群れ泳いでいたという「鯛ノ浦」周辺の風景を形造るなど、両地区の国有林は風光明媚な景勝地を一層引き立たせ、地元市民や観光客の憩いの場として親しまれています。

外房勝浦市〜内房木更津市に至る房総丘陵の上空は、平均5、6分間隔で羽田空港へ向かう旅客機の進入路になっています。

しかし、その地上の状況は、比較的温暖な気候に恵まれ、冬期間でも数種の花が心を和ませてくれています。この楽園の様な環境は、農耕・山林放棄面積の増加とも相まって、有害鳥獣駆除の対象となっている猪・鹿・猿・キョン等を爆発的に繁殖させ、農作物等へ甚大な被害を与えています。

加えて、シカ等の増加は、取り付いた「ヤマビル」の生息範囲を急激に拡大させており、山に携わる私達にとって最強の敵ともなっています。

森林官歴1年11ヶ月、退職まで両



小湊：鯛ノ浦と海ヶ谷国有林

手指が要らなくなったものの、4月以降、臨時雇用3名に支えられ現場業務を遂行しています。

昨年度から森林吸収源対策として森林整備予算が大幅に増加し、本年度も造林・

治山事業の除間伐等60箇所、130ヘクタールの実査復命が控えているほか、分収育林67ヘクタールや分収造林92ヘクタールの一部が主伐を迎えますが、引き続き、後世に恥じない山作りと後任者に迷惑を掛けない業務を目標に頑張っていきたいと考えています。



銚子市犬吠埼からの君ヶ浜国有林

私の視点

「森は、子どもたちを変え、教育を変え、日本を変える」

国立妙高青少年自然の家所長 三上 智

さとし



「遊々の森」とは、森林管理署が、森林の中で遊びたい、森林と触れ合いたい、森林の豊かさを理解したい、森林で学びたいという人たちの声に応え、森林活動のために国有林をフィールドとして提供する制度です。

「国立妙高青少年自然の家」は、上信越高原国立公園内の妙高山（標高2,454^{メートル}）の山麓（標高580^{メートル}）の大自然の中に、平成3年、最後の国立の青少年教育施設（27教育施設中27番目）として設置され、平成19年度の延利用者数は、1,299、112人であり、毎日のように、園児から大人までが自然体験活動を行っていています。今年度から、農林水産省、文部科学



間伐材を使って炭焼き体験

省、総務省の3省連携により「子ども農山漁村交流プロジェクト」が開始され、文部科学省が指定した小学校が農林水産省が指定する受入モデル地域の農山漁村で、長期宿泊体験活動を実施する取組が行なわれています。そして、「妙高市グリーン・ツーリズム推進協議会」が自然の家と開発したプログラムが評価されモデル地域に指定されています。このプロジェクトは、5年後には全小学生（1学年約120万人）が6年間に一度は1週間程度の宿泊体験活動を



小学生の森林の手入れ



妙高山の裾野に広がるフィールド

①五万戸国有林、②藤巻林道、③真川とニグロ川とその支流、④夢見平など 妙高山周辺の国有林地域を野外活動フィールドとして、環境教育や自然体験・自然学習に役立て

行なうよう計画されています。このプロジェクトの背景には、現在の子どもたちに、学級崩壊などに見られるような自制心や規範意識の希薄化、生活習慣の確立が不十分であること、問題行動、いじめによる子どもの自殺、体力低下などがあると考えられています。

私たち国立妙高青少年自然の家職員が考える青少年の課題は、「命を大切にする心、他人を思いやる心、規範意識の育成」です。そのために、「子どもたちに もっと 自然体験をさせたい」と願い、「いじめ、不登校、問題行動の根絶」を目標に事業を展開しています。

自然の家では、平成17年12月に上越森林管理署と協定を締結し、「妙高遊々の森」と称して、自然の家を利用する子どもたちが、

させていただいております。

自然の家が公表している敷地面積は、約132^{ヘクタール}ですが「妙高遊々の森」を含めると子どもたちが自由に活動できる範囲はいかがばかりになるのでしょうか。豊かな森が、豊かな自然が子どもたちに豊かな心、豊かな人間性を育んでくれると考えています。

今日も、子どもたちの歓声が森の中から聞こえてきます。

国立妙高青少年自然の家URL

<http://myokoniye.go.jp/>



木の上から聞こえる子どもの歓声

白田切川土石流

災害から30年

昭和53年5月18日、妙高山の白田切川上流の国有林において大規模な地すべり性の崩壊が発生し、それが土石流となって流れ下り、死者13名、重傷者1名の大惨事となるとともに、家屋全壊27戸、信越本線等の不通等被害総額56億円を超える甚大な被害が発生しました。

その災害から30年目の5月18日、災害を風化させず、危機管理意識を喚起し防災の備えを行おうと、「地域の防災を考える集い」(同実行委主催)

一枚の写真



天城山の大ブナ

この写真は、現在天城連山で一番大きい(太い)と思われるブナの写真で、今年3月天城峠西側のつげ峠付近で撮影したものです。伊豆半島の中央部に連なる天城連山には、ブナを主とする原生林が広がっており、つげ峠から手引頭へ向かう途中の稜線には、大きなブナが多く存在しています。その中でも一番大きなブナが写真のブナであり、幹周囲が5m22cmの大きさがありました。この大ブナ以外にも、5m近くあるブナがいくつか点在しており、訪れた時期はまだ肌寒い季節でしたが、夏を前にしたこの時期は、深緑に覆われた



市街地に流出した土石流の状況

が、妙高市内で開催されました。地域住民ら300人が参加しての総合防災訓練、砂防フロンティア研究所長田畑茂清氏による記念講演、災害当時の体験談発表などが開催され、追悼慰霊祭では、亡くなった13名のご冥福を祈りました。当署では、災害復旧治山工事として、平成2年度の工事完成までに約35億円を投じ、大型の治山ダム6基、山腹工12箇所を施工しました。また、その後、更に、上流部の南地獄谷等においても、これまでに約15億円を投じ、治山ダム7基等を施工するとともに、土石流センサーを設置しています。

美しいブナ林が見られるのではないかと想いを馳せています。なお、つげ峠付近で近年ブナが枯れかかっているとの報告もあり、現地を調査したところ、原因についてははっきりしませんが、この周辺は風がとて強く、風が一つの要因と考えられるのではないかと、意見や、また天城連山のブナ原生林には通常林床にはスズタケやササが群落をなしていますが、ここ数年でササがほとんど見られなくなつた(ここではニホンジカによる食害と考えられている)ことも影響しているのではないかと、意見もありました。

今後とも、治山事業を推進し、二度とこのような災害が起きないように予防対策を講じて参ります。



災害について述べる妙高市長

(上越署 流域管理調整官 山下 聡)

天城には多くの自然が残されています。他方、その自然がニホンジカの食害などにより、変化しつつある状況もあります。天城特有の自然を後世に残すためにその原因を探り、対策をとる必要があるのではないかと、大ブナを見ながら感じたところです。(伊豆署 森林ふれあい係長 可知のどか)

発行所 関東森林管理局
編集 総務課
TEL(027)210-1158
FAX(027)210-1159

